

三河のつばやき

暑くなったり、寒くなったり、毎日の温度変化が激しい日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。鴨川には亀田医療大学が新しくでき、本日は鴨川市総合福祉センター、社会福祉協議会、大学の諸先生方、それと私と唐鎌さんと、「学生が参加できるボランティアにはどんなことがあるか」を議論してきました。ざっばらんに皆で話をして、たくさん面白いアイデアができました。秀逸だと思ったものは「高齢者とはにかく話をしたい→自分史をお話してもらい、編纂する(話も聞けて、鴨川市の歴史も蓄積できる!)」高齢者の住んでいるアパートやマンションに、学生が安く入居できる。ただし掃除や自治会活動に参加したり、お買い物を手伝ったりする。広い家で部屋が空いているなら、シェアハウスのようにして、入居費を安くする。一緒に晩御飯を食べたりできるかも? いずれもたくさんの課題があり、簡単に実現できるものではありませんが、「若い人が自然と土地の人と交わることができる。それ自体が共助を推進することとなる」良いアイデアだと思いますか? これからもたくさんの人と会い、アイデアを出しあい、少しでも実現できるよう努力していこうと思います。



地域医療連携室 室長 三河 貴裕

マイブーム クックパッド

最近のブームは、超便利、料理レシピサイトのCOOKPAD(クックパッド)を活用して毎日の食事作りを乗り切る! このサイトのおかげで、お料理のレパートリーが増えたことは間違えない、ご存知の方も多いと思いますが、このサイト、作りたいお料理の検索はもちろんのこと、作ったお料理を投稿できたりもする。お料理の作り方や、材料の検索に使うことが多いが、作ったお料理を投稿している方の中には、お子様向けに材料をアレンジしたものや、一部の材料を変えて、手抜きレシピを投稿している方もいて、こちらもまた魅力的。活用方法は、スーパーで安い食材を見つけ、それを使ったレシピをその場で検索して、他の材料を買って帰る。また、たまの外食でおいしかったお料理を検索して作れば、マンネリ化した料理のレパートリーが増える。アレンジを加えた手抜きレシピの方が活躍する機会が多い。スーパーでスマホ片手にお買い物している方を見かけたら、クックパッドを開いているかもしれませんね。

てぬきママさん

TOPICS 開催予定の勉強会のご案内 TOPICS

1. マインドフルネス勉強会
 - 第2回「自分自身の家族との関係性」
 - 日程: 9/14(土) 9:00 ~ 16:00
 - 会場: 亀田総合病院 K13ホライズンホール
 - 対象: 医療従事者
 2. 安房地域 褥瘡看護勉強会
 - 第1回: 平成26年1月31日(金) 18:00 ~ 19:00
 - テーマ: 褥瘡の病態について
 - 第2回: 平成26年2月28日(金) 18:00 ~ 19:00
 - テーマ: 褥瘡予防の技術(体圧分散)
 - 会場: 安房地域医療センター2階会議室
- * 詳細はプログラムを参照ください。

第4回 地域医療連携交流会のご案内

平成25年10月15日(火) 18:30 ~ 21:00
 * 開場: 18:00 ~
 会場: 亀田総合病院Kタワー13Fホライズンホール
 懇親会費: 2,000円
 テーマ: 「地域で抱える現状と今後の展望」
 演者
 1) 赤門整形外科内科 院長 宮川準先生
 2) 中原病院 副院長 関口千春先生
 3) 塩田病院 脳神経外科部長 飯田昌孝先生
 4) 永津さいとう医院 院長 木元博史先生
 特別講演: 亀田総合病院 院長 亀田信介
 対象: 法人職員及び地域医療連携機関
 職種問わずご参加ください。
 * 詳細はプログラムを参照ください。

第3話 専門多職種連携による地域づくり



鴨川市ふれあいセンター 健康推進課 牛村 隆一 課長

専門多職種連携による地域づくりのお話しをします。これまで、第1話、第2話では、安心生活の基盤構築に必要な地域住民から地域がつながるワンストップ相談支援についてお話しをしてきましたが、もう一つ重要なことは、専門職同士の連携と、専門職がいかに「地域」の住民や関係団体とつながるかということです。このため、平成23年度から医療・介護・保健・福祉関係の専門多職種との地域連携による仕組みづくりを、鴨川市社会福祉協議会と進めてきました。そして、昨年度は、権利擁護や福祉教育も視野に入れ、司法・教育も含めた専門多職種連携セミナーを開催しましたが、その中でも医療の事例では、亀田総合病院・地域医療連携室長の三河貴裕先生に「在宅医療現場における事例」を報告していただきました。これをきっかけに、三河貴裕先生をはじめ地域医療連携室のスタッフの皆さん、亀田医療大学の先生方、市内訪問看護ステーション、介護サービス事業者、福祉総合相談センター、社会福祉協議会の専門スタッフ等で、在宅医療現場における現状と課題を把握しながら、できることから地域連携の仕組みづくりを現在行っています。まずは、訪問看護ステーションと医師との連携の方策、さらに高齢化率50%以上の、いわゆる限界集落における地域医療連携について、天津小湊地区で、介護予防サポーターをはじめとする地域福祉活動団体と話し合いを始めたところです。このように、誰もが安心して生活できる地域づくりに向けては、地域住民や専門多職種との連携は欠かせないところです。今後は実践を通じて、より一層地域連携を具現化していきたいと考えています。

『 退院後に困らないようにしよう! 』 総合相談室・副室長・亀田総合病院居宅介護支援事業所・所長 打野 弘子

皆様こんにちは。私は地域医療支援部内にあります総合相談室に勤務しています。主にケアマネジャーの仕事を行っております。介護保険が始まる前に亀田総合病院の退院患者さま(65歳以上)全員に認定調査を行い検討した結果約3割の人が何らかの介護が必要な状態で退院されていく事がわかりました。そのため「退院後に困らないようにしよう!」を合い言葉に相談室の業務を検討してきました。総合相談室には相談員(MSW、PSW)、退院支援看護師、医師、ケアマネジャーと一緒に働いています。患者さまに対して入院中は相談員や退院支援看護師が関わり、退院時ケアマネジャーに引き継ぎ、一人の方に継続的に関わっていただける体制を作りました。又同じフロアには訪問看護師、薬剤師、栄養士、リハビリ、ヘルパーも共に働いておりますのでわからない事などは専門家に相談しています。又、地域の先生方にいろいろご指導頂いたり、各事業所の方々と連携を図り、スムーズにサービス導入が出来るよう努めています。利用者様に変化があった時などお互いに協力しあい情報を共有することによりニーズに的確に対応できるよう努めています。現在ケアマネジャーは12名、そのうち5名はKFCT内に事務所を置き働いています。担当地域は鴨川市、南房総市、館山市、勝浦市、鋸南町、御宿町と広範囲を受け持たせて頂いています。また特定事業所加算 を取得していますので高介護度3、4、5の方が50%以上を保つ必要があります。困難事例や虐待事例などに関わることも多々あり、どうしたら良いか悩むことも多いですが、そのような時は積極的に行政に相談し、同行訪問を依頼したり、事例検討などに参加させて頂き、それぞれの立場からの意見やアドバイスを頂き、関わる人たちが同じ方向を見つめ利用者様に関わっていただける様、連携を図ることが大切だと思います。そして少しでも良い状況で在宅生活を送られるように支援して行きたいと考えています。これからもよろしくお願ひ致します。